

キンギョ鱗の骨組織研究への応用

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科口腔形態学分野¹⁾・岡山大学歯学部先端領域研究センター²⁾

東京医科歯科大学教養部生物学教室³⁾・金沢大学環日本海域環境研究センター⁴⁾

池亀 美華(准教授)¹⁾²⁾・服部 淳彦(教授)³⁾・鈴木 信雄(教授)⁴⁾

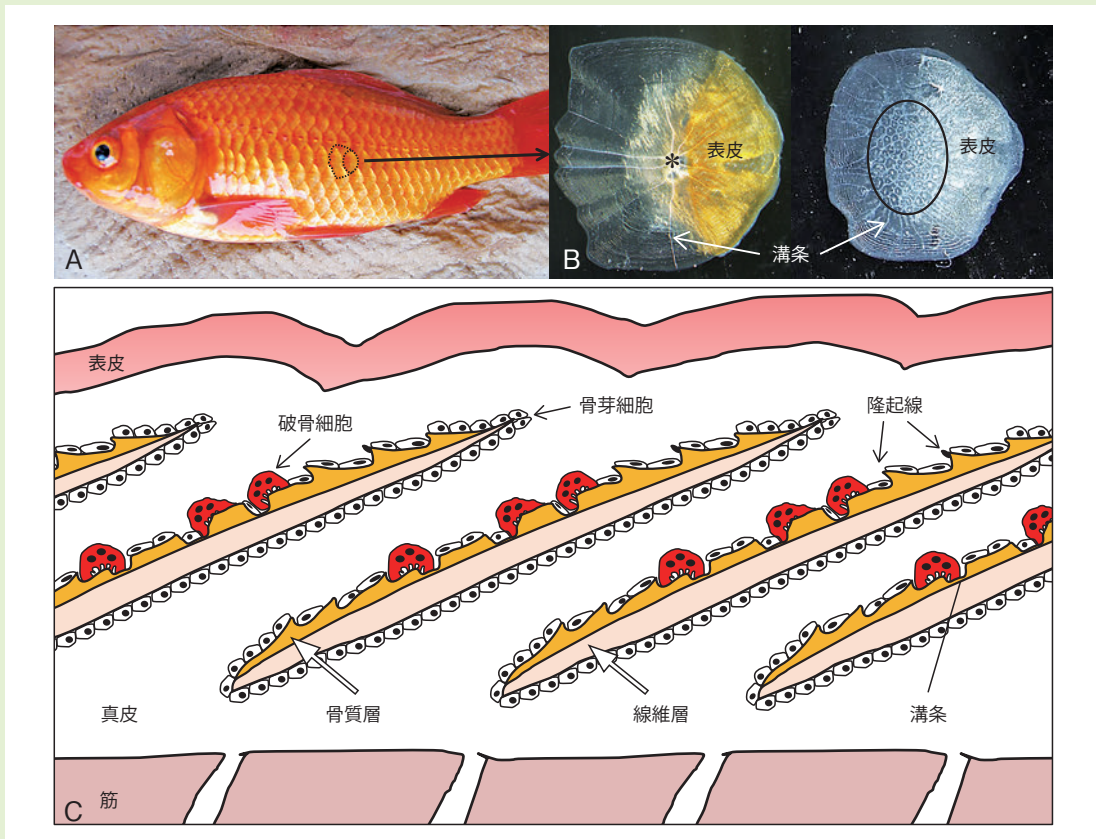


図1 キンギョの鱗

A: キンギョの成魚の側面観.

B: 抜去した鱗の全体像. 左側は原生鱗(ontogenic scale), 右側は再生中の鱗. 両者ともに表皮に覆われている部分と, 真皮中に埋もれている部分がみられる. 原生鱗では溝条は鱗中央(*)から放射状に走行し, 再生鱗では溝条が鱗の中央で複雑な網目状を呈する(円で囲まれた領域).

C: 鱗の矢状断面の模式図. 表皮側には骨質層, 真皮側には線維層がみられる.